



北陽同窓

会報 第29号

2006年11月30日

発行 北陽高等学校同窓会

編集 同窓会広報委員会

印刷 (株) キュー・プロダクト

北陽改革元年 学校が変わる



会長 ご挨拶

同窓会 会長

神山興三（昭和33年卒）

同窓会会員の皆様におかれまして、益々ご健勝で、ご活躍のこととお慶び申し上げます。日頃は同窓会運営に対しまして、ご支援、ご協力を賜わり厚くお礼申し上げます。

昨今の私学のおかれている環境は、一段と厳しい状況に陥っております。少子化と校区編成等により、大幅な定員割れが生じ、危機的状況になっております。学園としては、打開策として、魅力ある学校にすべく平成19年度新入生から、コース制の改編に取り組み新しくスポーツコースを新設し、平成20年度からは女子を受け入れ

ることに踏み切りました。本校は男子校として、伝統を守ってきたが、時代の変化に対応することも重要ですが、慎重にかつ、用意周到なる準備をし、万全な体制のもとで、受け入れを決定してもらいたいと思います。

昨年は、本校80周年を迎える11月5日に、福武学園主催による記念式典が挙行され、当日は350名近い方々の出席を賜わり盛大かつ成功裡に、式典を終了することが出来ました。この紙面をお借りしまして、当日出席されました多くの同窓生各位に対し、厚くお礼申し上げる次第であります。これからも、同窓会の活性化をはかり、より一層絆を深め皆様に親しまれる同窓会にしてまいりたいと思いますので、今後共ご支援、ご協力賜ります様お願い申し上げます。



母校の教育改革について

校長

鈴木清士

昨年11月5日の創立80周年記念式典では、同窓会を中心に350名が一堂に会し、今までの歴史を築いてくださった先輩諸氏に感謝し、本校の発展のために今後も尽力させていただくことのお誓いを致しました。

今年は単に創立81周年ではなく、「北陽改革元年」を迎えた、と考えています。

3月に現行のコース制を見直すプロジェクトを発足させ、来年度の新入生から「新しい4つのコース」を立ち上げることを決めました。現在は、それぞれのコース推進チームによる3ヵ年を見据えた具体案策定という作業が行われています。そして再来年度からはアドバンスコースに限り、女子を受け入れることも決めました。つまり2010年度から北陽は男子校から共学校に生まれ変わるのであります。

共学については同窓会OBの方、あるいはPTAの方か

らは賛否両論の意見を頂戴しました。ただここでハッキリいえるのは、こうした一連の改革は、もちろん生徒数減少に歛止めをかける「募集改革」という要素はありますが、しかし本質的には「学校改革」であり「教育改革」だということです。つまり、一人ひとりの教職員が教育力を高め、全体として学校が活性化する、生徒がイキイキとしてくる、という状況にさせることをいいます。

女子が来るようになれば生徒が増える、という保障はありません。幻想を抱くのではなく、大切なのは現実を直視した上で、教師として学校として教育力を高めていく覚悟と努力をする、ということです。

改革は、実はもうすでに始まっています。今いる720名の生徒に対して全力で指導する、一丸となって取り組むという姿勢が現場になければ将来も成功するわけはありません。その意味で、今年は「北陽改革元年」だと申し上げたのです。

北陽はさらに進化を続けます。同窓会の皆様には今後もよろしくご指導のほどをお願い申し上げます。

学校が変わる

母校は、創立80周年を昨年迎えました。81年目に入る今年、来年度の新入生から新しい4つのコースでの募集を開始することを決めました。現在までの標準コース・特進コースに替わって、

新しい4コースがスタート ~来年度から~

- ①アドバンスコース(これまでの特進コースを受け継ぎ、国公立・難関大学進学を目指す特進アドバンスクラス、クラブ活動と難関大学進学との両立を目指すアドバンスクラスの2クラスで構成)
- ②スタンダードコース(文系大学現役進学コース)
- ③キャリアコース(就職・公務員を目指すコース)
- ④スポーツコース(スポーツを深く学び、アスリートを養成するコース)の4コースです。



女子受け入れスタート ~平成20年度から~

また、平成20年度からはアドバンスコースで、ついに女子の受け入れに踏み切れます。現在、新しいコースと女子の受け入れに向けて急ピッチで準備を進めています。ご期待ください。

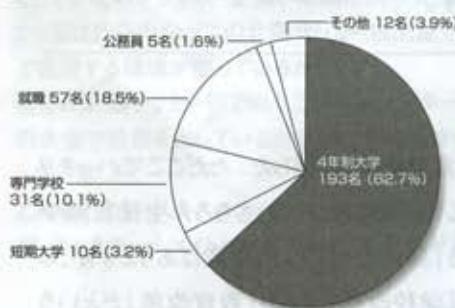
ご存知ですか、卒業生推薦入試枠を

卒業生の三親等以内の方で、専願を条件として、特例推薦枠が設けられています。

お問合せは、北陽高校校長 鈴木清士先生(06-6328-5964)まで。

進学の状況

平成18年度 進学状況



■国公立大学

大学名	平成18年度	過去3年間
東京芸術大学	1	0
都留文科大学	0	1
島根県立大学	0	1
大阪成蹊大学	4	8
大阪体育大学	0	8
大阪電気通信大学	4	10
大阪人間科学大学	3	7
大手前大学	15	52
関西国際大学	2	4
関西鍼灸大学	0	1
関西福祉科学大学	0	1
京都学園大学	5	8
京都精華大学	1	1
京都創成大学	1	2
近畿福祉大学	0	4
神戸国際大学	8	31
四天王寺国際仏教大学	1	6
聖和大学	4	10
相愛大学	2	5
太成学院大学	4	8
宝塚造形芸術大学	4	6
帝塚山大学	4	17
帝塚山学院大学	1	8
天理大学	3	6
大阪芸術大学	1	5
大阪国際大学	12	30
大阪産業大学	49	110
大阪商業大学	6	15
阪南大学	15	46
姫路獨協大学	2	2
兵庫大学	3	3
流通科学大学	1	2

■近畿圏以外の私立大学

大学名	平成18年度	過去3年間
愛知医科大学	1	1
岡山理科大学	0	1
金沢工業大学	0	1
金沢星稜大学	1	2
吉備国際大学	0	2
北海道情報大学	1	1
第一薬科大学	0	2
東京電機科学大学	0	2
東北福祉大学	0	2

短期大学 合格状況

大学名	平成18年度	過去3年間
大阪青山短期大学	0	3
大阪産業短期大学	4	7
関西外国語大学短期学部	3	6
京都経済短期大学	1	3
産業技術短期大学	3	4
四天王寺国際仏教短期	1	3
奈良佐保短期大学	2	2
東大阪短期大学	1	3

専門学校 合格状況

種類	人数	種類	人数
工業・情報系	9	商業・実務系	2
衛生系	4	文化・教養系	2
医療系	3	教育訓練校	0
ファッション系	1	その他	6
教育・福祉系	4		
		合計	31

■近畿圏内の私立大学

大学名	平成18年度	過去3年間
同志社大学	0	2
関西学院大学	2	10
立命館大学	0	1
関西大学	4	11
立命館アジア太平洋大学	0	1
龍谷大学	4	17
甲南大学	2	3
京都産業大学	21	77
近畿大学	12	51
関西外国語大学	6	14
京都外國語大学	1	5
大阪経済大学	14	35
大阪工業大学	3	7
桃山学院大学	2	16
神戸学院大学	12	25
摂南大学	16	44
佛教大学	0	4
英知大学	1	4
追手門学院大学	28	71
大阪学院大学	9	27
大阪経済法科大学	2	21

母校80周年を祝う会

平成17年11月5日(土)、大阪ガーデンパレスホテルに於いて学園主催による記念式典が挙行され、卒業生、旧職員、現職員の先生方をあわせ350名が参加しました。

雅楽のオープニングに始まり、卒業生小西浩文氏(昭和55年卒)の記念講演、式典の部から祝賀会へと移り4時から8時過ぎまで関係者一同ともども80周年を祝うことができました。ご参加いただいた人、残念ながら参加できなかった同窓生も90周年への参加をお待ちしております。

(事務局長 塩田修三 昭和35年卒)

同窓会事務局から

同時に発刊された「目で見る北陽80年」が学校から同窓会にいただき同窓会室にあります。学校へ来られるか、同窓会事務局へご連絡ください。



□募金協力者名簿

林 敏夫	北川 慶一	豊田 猛義	木村 洋一	黒川 浩	川西 章仁
堀江 道輔	浜本 辰己	橋本 英之	吉谷 巍	大塚 徹也	前田 武志
金澤 勇	藤浦 昇	三野 英男	前田 省三	利川 元善	山下 正喜
佐藤 誠一	奥田 正道	中田 登	村田 正明	松村 謙	田中 堅信
松岡 英孝	眞壁 和義	金本 太仙	上野 昇	矢野 吉久	浦川 俊博
岩 健次郎	小寺 恒夫	三原 地生	岩本 博義	北川 徹	嘉瀬 敏弘
岸 密晴	和田 昭一	大谷 志郎	大野 健三	橋本 幸弘	内田 耕平
倉石 文昭	上田 昭三	杉山 友洋	井上 弘昭	西原 一謙	松永 英哲
上田ヒテ子	三宅 敏晴	大森 良通	辻井 宏	山下 雅二	内田 健造
松村 豊	篠本 篤治	山口 恵司	西田 勇	山本 武司	田中 乗光
杉本 二一	荒木 俊夫	梅森 薫	松村 清正	木本 和行	大橋顕一郎
今村 稔	深谷 正昊	川村 隆彦	内田 勝次	大塚 浩	細川 幹仁
荒木 繁雄	木村 光延	神山 興三	堀岡 宰充	木ノ下良久	中原 秀司
牧野 雅男	加藤 信雄	小林 栄三	岡部 守隆	小池 修	野口 明男
西尾 次郎	吉川 幸治	丸山 一	寺井 弘隆	星野 勝	永野 路博
高木 栄	林 清太郎	石川 隆一	分銅 圭一	梶野 忠行	木戸 直樹
中西 武三	上田 勉	天方 正和	城島 末明	岡田 彰布	北川 功
寺田弥三郎	村尾 清道	吉田 健	梶川 尚男	平井 佳夫	山田 慶介
西畑 繁	山脇 義信	吉田 稔弘	今西 吉孝	池田 寿雄	大橋 雅法
高木 孝雄	神尾 正生	生島 博史	多田 繁昌	横田 広司	岸上 和季
見市 弘行	西本 芳男	土井 忠喜	西本 太一	丹野 英次	神前 敬太
三木 正夫	武岡 昭夫	森本 良彦	田中 秀典	安達 仁	中田 慎介
井上 孝平	三木 肇三	井上 公章	金井 克純	小西 浩文	梶間 真之
佐野 良晴	棕本 忠次	並田 繁夫	足立 宗央	中島 豊博	平井 謙典
津田 真治	松浦 勇	義永 忠孝	松本 純一	康村 則雄	森迫 勇太
田村 章一	西尾 高行	竜田 洋	安宮 悟	中山 善允	山田 昌宏
西村 一男	吉田 貞雄	岡田 武志	釘宮 常幸	富島 哲夫	木山 剛
岩崎 悅治	福島 嘉雄	山口 勝三	飯川 隆司	河合 弘幸	松浦 豊
伊佐見秀雄	古川 貞夫	有年 安永	内海 昭	出口 達也	伊藤 広太
福嶋 敏夫	平 孝雄	永岡 一泰	宮野 孝雄	田村 隆之	澤見 正樹
菊野 良平	木田 公三	振津 和生	長崎 廉一	林 直樹	横野 幸一

■ 平成17年度 事業報告

17年度は母校創立80周年の年でもありました。式典が挙行されるにあたり、同窓会もこの節目に新体制での三木前会長の強い要望による勇退で、神山会長にバトンタッチされた年でもありました。記念式典は福武学園主催、同窓会後援で、11月5日(土)大阪ガーデンパレスに於いて、同窓生300名を含む350名が出席しました。同窓会として、80周年協力募金を募った結果、1,087千円が寄せられ、神山会長が代表して鈴木校長に贈呈致しました。母校は、近年の少子化の波をもろに受け、未曾有の大幅な定員割れが生じるという結果となり、同窓会にとって財政的に大きな問題が起きてきています。18年度も、募集人員320名に対して204名という結果になっております。

会報は創立80周年記念号として昨年に引き続き紙面を拡大して発行し、記念式典及び協力募金に対しても寄与致しました。

恒例のゴルフコンペも10回を重ね、記念大会として6月8日(木)、太平洋ゴルフクラブ有馬コースに於いて100名を超える参加者によって開催しました。

今期の収支は、創立80周年が寄与して会員協力金は前年比391千円の増となりましたが、他の減収もあり結果として予算比248千円の赤字となりました。

卒業生の減少による会費の減収は今後ますます進み、赤字から脱却するためには、会員協力金の増収に頼るしかありません。

同窓の皆さんに、この現況をご理解のうえ、ご協力を頂きたくよろしく御願い致します。

副会長 足立宗央(昭和42年卒)

■ 平成17年度 決算報告書

自 平成17年4月1日
至 平成18年3月31日

▽収入の部

科 目	予 算	実 績	適 用
前 期 繰 越 金	12,767,557	12,767,557	
会 費	1,545,000	1,515,000	
会 報 協 力 金	800,000	616,000	
代 議 員 会 費	200,000	155,000	
会 員 協 力 金	1,000,000	1,011,000	
会 報 広 告 収 入	0	0	
雑 収 入(受取利息他)	2000	1,645	
合 計	16,314,557	16,066,202	

▽支出の部

科 目	予 算	実 績	適 用
会 議 費	50,000	3,570	
代 議 員 会 議 費	200,000	139,830	
人 件 費	390,000	372,000	
交 通 費	260,000	260,660	
消 耗 費	20,000	40,289	
通 信 費	1,500,000	1,076,461	
慶弔 費	50,000	0	
雑 費	130,000	247,812	
予 備 費	100,000	30,000	
計	2,700,000	2,170,662	
事 業 費	0	0	
会 報 発 行 費	1,300,000	1,636,572	
組織強化・協力推進費	100,000	16,330	
事 業 運 営 費	100,000	274,250	80周年粗品含
計	1,500,000	1,927,152	
合 計	4,150,000	4,097,774	
次 期 繰 越 金	12,164,557	11,968,428	
合 計	16,314,557	16,066,202	

役員・顧問

会長	S33	神山興三	
副会長	S42	足立宗央	
	S42	米川修二	
	S51	岡田彰布	
会計	S41	西本太一	
事務局長	S35	塩田修三	
理事	S35	竜田洋	総務委員
	S35	西岡達郎	組織協力委員

S37	村田正明	組織協力委員
S37	十時良雄	関東支部
S39	岡部守孝	関東支部
S41	喜多憲治	総務委員
S42	寺田賢作	事業運営委員
S42	松本純一	広報委員
S43	内海昭	関東支部
S50	中尾明	広報委員

S52	八木知之	事業運営委員
S58	山口茂	事業運営委員
監事	S35	岡田武志
	S42	栗原貞雄
名誉顧問	福武道裕	福武学園理事長
	鈴木清士	北陽高校校長
顧問	三木憲三	前会長
	栗田文吉	副会長

北陽高等学校同窓会会則

平成18年4月1日改定

第1章 総則

(名称及び事務局)

第1条 本会は、北陽高等学校同窓会と称し事務局を（大阪市東淀川区上新庄1丁目3番26号）北陽高等学校同窓会室に置く。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の親睦を図り建学の精神を堅持し、母校の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前第2条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 1 本会の機関紙「北陽同窓」会報の発行及びホームページの運用。
- 2 本会会員相互の親睦を図る事業。
- 3 学校主催の各種行事への参加及び母校の発展に寄与する事業。
- 4 その他目的達成に必要な事業運営を図るために委員会を設ける。

第2章 会員

(会員)

第4条 本会の会員は、次のとおりとする。

1 正会員

(1) 北陽商業学校、北陽工業学校、北陽商業高等学校、北陽中学校及び北陽高等学校の卒業生。

(2) 上記学校に在学した者で、役員会の承認を受けた者。

2 特別会員 母校の現教職員並びに旧教職員で、役員会の承認を受けた者。

3 名誉会員 母校若しくは本会に特別な関係があると認められる者で、役員会の承認を受けた者。

第3章 役員及び役員会

(役員)

第5条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 3名
- (3) 理事 若干名
- (4) 会計 1名
- (5) 監事 2名
- (6) 事務局長 1名

(役員の選任)

第6条 役員の選任については、次の方法による。

1 会長は、役員会の推薦により代議員会の承認を得るものとする。

2 副会長、会計、理事、監事、事務局長は、会長が委嘱代議員会の承認を得るものとする。

3 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(役員の会務)

第7条 役員は、次のとおり会務を分掌する。

- 1 会長は、本会を代表し会務を総括する。
- 2 副会長は、本会の会務に關与すると共に会長を補佐し会長がその会務にあたることができないときは、会務を代行する。
- 3 理事は、本会の会務を執行し協議運営に關与する。
- 4 会計は、本会の会計事務を処理する。
- 5 監事は、本会の会計を監査する。
- 6 事務局長は、本会の事務局を管理運営し会務を処理すると共に本会重要事項等の記録を処理保管する。

(役員会)

第8条 役員会は、毎年2回これを開く。ただし、必要と認めるときは臨時にこれを聞くことがある。

(役員会の召集)

第9条 役員会は、会長が召集し役員総数の半数以上（委任状を含む）の出席を必要とする。

(役員会の議決)

第10条 役員会の議決は、多数決を以て成立するものとする。ただし、同数の場合は会長がこれを決する。

第4章 代議員及び代議員会

(代議員及び定数)

第11条 本会に代議員を置き、定数は原則各年代卒業生の中より選出された者、300名以内とする。

(代議員の選任)

第12条 代議員は、会長が委嘱するものとする。

(代議員会)

第13条 代議員会は、本会の最高議決機関である。

1 代議員会は、毎年春に開く。ただし、必要と認めるときは臨時に開くことがある。

2 代議員会は、会長がこれを召集し次の議事を審議する。

(1) 事業報告及び決算報告。

(2) 事業計画及び予算。

(3) 新役員の承認。

(4) その他重要な審議事項。

(代議員会の議決)

第14条 代議員会の議決は、出席代議員の多数決を以て成立するものとする。

第5章 総会

(総会)

第15条 総会は、会長がこれを召集し代議員会を以てこれに代えることができる。

第6章 顧問

(顧問)

第16条 本会に次の顧問を置く。

(1) 名誉顧問

(2) 顧問

(顧問の選任)

第17条 本会顧問の選任は、次のとおりとする。

1 名誉顧問は、学校法人福武学園理事長及び北陽高等学校校長を推戴する。

2 顧問は、全任役員の中から会長が推挙する。

(顧問の役務)

第18条 名誉顧問及び顧問は、本会の相談に関与する。

第7章 支部

(支部)

第19条 本会の目的に沿って支部を置くことができる。

(支部の会務)

第20条 支部に支部長を置き、支部長は支部を統括し会則、役員名、重要事項、その他必要に応じて支部の状況を会長若しくは事務局長に報告し連絡を密にするものとする。

第8章 会計

(運営)

第21条 本会の経費は、会費、協力費、篤志家の寄付金及びその他の収入を以てこれに充てる。

(会計年度)

第22条 本会の会計年度は、毎年4月1日より3月31日までとする。

第9章 惩則

(惩則)

第23条 本会会則の変更あるときは、役員会の議を得て代議員に諮り承認を得るものとする。

第24条 その他定めなき重要な事項は、役員会の議を得て代議員会に諮り別途定めるものとする。

第25条 本会会則施行に關し必要な事項は、内規に定めることとする。

付則

この会則は、昭和54年9月22日施行。

平成5年5月8日改正施行。

平成9年4月19日改正施行。

平成13年4月21日改正施行。

平成18年4月1日から改正施行する。

同窓の近況

第22回定期制(昭和45年卒、担任松本昇先生)の卒業生11名は昨年11月12日~14日の二泊三日、北九州へ同窓会旅行を行った。幹事 永野修身君(福岡)、小田忠君(長崎)の企画、担当で一日目は博多・長崎を回り旗松亭に泊まり二日目は平戸・元冠ゆかりの鷹島へ行きモンゴル村のテントに泊まり、朝食は小田忠君の実家でとるというユニークな企画だった。

定期制は男女共学で、卒業後も実家のある地方で着実な生活をしている者が多く、その二名ずつが幹事をやり、女子が連絡・会計をやるという役割分担で今まで二年に一度ずつ、京都、伊勢、下呂、愈敷、徳島、天橋立などへ一泊旅行を行った。二泊と



写真は佐賀・吉野が里にて

いうのは今回が初めてでそのせいか、参加者はいつもの半分であった。

「二年後は滋賀でやる」と申し合せ、博多で解散した。

同窓の近況

～S・35年卒業、Eクラス同窓会～

「逢えばあくに昔に戻れる」

竜田 洋君の司会進行で、今回も元教頭 金澤 勇先生にご臨席を賜り、平成18年10月7日(土)2年ぶりのクラス同窓会が、リーガロイヤルホテルで始まりました。

今回、卒業以来初参加の級友も出席し、46年間の空白も「逢えばすぐに昔に戻れる」友情の素晴らしさを感じ、多感な思春期の3年間、同じ空気を吸い、同じ景色を見て育った仲間として、北陽高校で生涯の友人を得たことは、本当に貴重であります。

料理に舌鼓を打ち、美酒を酌み交わしながら高校時代の思い出話に華が咲き、楽しい宴たけなわのころ、我が母校野球部が今日準決勝で勝ち進み、明日の決勝戦へ駒を進めた情報がもたらされ、久しぶりの春の選抜出場に夢を持たせるニュースに大いに盛り上がりいました。

その後、参加者全員の近況報告があり、リタイアして悠々自適の生活に入っておられる方、また地域のボランティア活動で活躍されている方、まだまだ現役で頑張っておられる方など、皆それぞれ生き生きと生活されている様子を伺うことが出来ました。

我々が卒業した昭和35年当時の授業料について質問したところ、親が支払っていたので知らないとか……見当がつかないなど、当時の初任給は8千円~1万円程度、お米10kgで680円、母校の授業料月額1,800円、施設費250円、学校諸経費500円であった。当時の「授業料納付簿」「施設費納付簿」「学校諸経費納付簿」等を閲覧してもらったところ、よく保存していたなあ~とか、懐かしいなあ~など、深く身に滲みて感じるひと時がありました。

宴も終盤に差し掛かったころ、大山 賢造君から最近 子供に対する虐待、イジメ、自殺、殺人、交通事故などの惨状に暗澹たる思いをしている、地域の子供達のために力を貸して欲しいとの要望がありました。

金澤 勇先生が小学生のころ、空襲で焼け野原になった中を登校した時、自分一人であったためか教員から、さっさと家に帰りなさいと言われ、それを聞いた近所のおばさんが「子供は国の宝ではないのか」と学校の対応に猛抗議をしてくれた話を披露されました。

我々の子供のころ、近所のおじさんやおばさんは、他人様の子供でも我が子のようにイタズラをした時は叱り、良いことをした時は褒めて育ててくれたと思います。

「子供は国の宝」としても一度、親、学校、地域社会が一体となり大切に育てなければ、この国の明日が無いことを実感しました。

最後に竜田 洋君からのプレゼントのショルダー型ポシェット4個を2組のチームに分かれてのジャンケンによる争奪戦に大いに盛り上がり、あっと言う間の3時間でした。

次回、クラス同窓会の再開を約束し、お開きとなりました。

(記:岡田 武志)



写真:昭和35年卒業 3-Eクラス同窓会(敬称略)
後列左より井上了介、平井栄治、山田勝彦、鎌田吉二、大山賢造、中上聰明、喜多勝綱、山口勝三
前列左より竜田 洋、山本正明、金澤先生、岡田武志、平岡 勇

同窓の近況

昭和34年卒業生 幹事 西川新一

去る平成18年10月23日、梅田丸ビルに於いて、昭和34年3月卒業以来の第一回クラス同窓会を行いました。当時私達のクラスE組は70名卒業しました。

今年7月初めより、和田会長が発起人となり、私西川が幹事として、懸命に名簿等あらゆる方法で住所を確認しましたが、当日参加者は7名にしかませんでした。しかし会は盛況で、50年という年月を越えて、北陽高校在学時に戻った様に思い感慨深い気持ちでいっぱいでした。

お互い「北陽高校の卒業生で良かった」と確認し益々の母校の発展を祈りました。第2回3回と続けて行き、参加者も増えることを願っています。

追伸 陸上部、野球部、サッカー部等他のクラブの活躍ぶりを、伝えております



写真 写真前列右より 吉具五郎、玖珠安彦、西川新一、上田 城、荒木芳雄の各氏
後列右より 木島正秋、和田修一の各氏

同窓の近況

阪神タイガース岡田彰布氏(昭和51年卒)を激励する会が開催

平成18年1月20日(土)、ホテル阪神において、硬式野球部OB会(窪田喜久男氏、昭和41年卒)が球界の指導者として活躍中の岡田彰布氏を招き、前監督の松岡先生、恩師でサッカー部監督の野々村先生、福武学園理事長、鈴木校長、神山同窓会会长、硬式野球部OBら総勢180名が出席して開催された。

三回目の激励会も平成19年1月20日(土)午後6時から、ホテルグランヴィア大阪(JR大阪駅)で開催される。



松村 豊氏(第1期卒業生)ご逝去

八代目校長 林 敏夫先生

松村豊さん(昭和四年卒)の訃報に接し、哀惜の念に耐えません。

思えば、私が校長就任以来ずっとお世話になり、ご指導もいただきました。

その温和で誠実な人柄から衆望をになって、同窓会の刷新のためにご尽力も賜わりました。

第一回の卒業生として常に母校を思い、陰に陽に援助をいただいたことを今改めて感謝するばかりです。

誠に糸島貫太郎校長先生の「陰徳を積め」という教えを見事に実践された人でした。

昨年秋の北陽高等学校八十周年記念式典でお会いしたのが最後となりました。衷心

からご冥福をお祈り申し上げます。 合掌。



(写真中央)

第1回北陽高校同窓会ゴルフコンペ開催

梅雨前の6月8日(木) 兵庫県吉川カントリー倶楽部(6414ヤード、バー72)で開催。

福武理事長、金澤元教頭先生、ゲストに一枝修平、大熊忠義、樋口正蔵、室山皓之助氏ら元プロ野球選手、KBS京都の久保

房郎アナウンサーを迎え、総勢74名が晴天のゴルフ場で白熱の戦いを展開しました。

年々若い人達の参加が増え、友が友を呼ぶ人の輪がひろがっています。

競技終了後の表彰式で、神山会長の挨拶のあと、数多く持ち寄せられた賞品の品々を手際よく贈呈され、盛会のうちに散会。

又来年の再会を約す。(事業運営委員会 八木知之 昭和52年卒)

競技成績



順位	プレイヤー名	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
優勝	松原民郎(昭和41年卒)	45	44	89	19.3	69.8
2位	渡辺雄二(ゲスト)	41	40	81	10.8	70.2
3位	西森 務(昭和60年卒)	44	42	86	14.4	71.6
4位	河野正義(ゲスト)	40	42	82	9.6	72.4
5位	一枝修平(ゲスト)	43	44	87	14.4	72.6

天国の父を目指して!!

2年 久高友成君

私は、小学校4年生の時に悲しい出来事を経験しました。

その悲しい出来事とは、自分の事を大切に育ててくれた父が胃がんのために、守口の病院で亡くなったことです。

その時自分も病院にいて、父の病室で寝ていて急に母に起こされ、周りの人達が泣いているのに気付いた瞬間、自分の父が亡くなったのに気づきました。

その後、僕は父が亡くなつてから6年後、父の出身校である北陽高校に入学する事を決めました。

北陽高校に入学しようと思ったきっかけは、自分は幼い頃からサッカーをしていたのでサッカーが強い北陽に入ろうと思ったこと。

2つ目は自分の父がこの北陽サッカー部出身で、プロサッカー選出として通用する環境が整っているからです。

自分の北陽サッカー部でのあこがれは、インターハイや選手権など数々の大会で結果を出しているからです。僕は大きな期待と不安を心に持っていました。

どんなサッカースタイルなのか、どんな練習をするのか、どんな先輩たちが、どんなチームメイトがいるのかとても興味がありました。しかし、実際に

北陽サッカー部に入って思ったのは、練習でかなり走ったり筋トレをしたり、今までに経験したことがないほどのしんどい練習ばかりでした。しんどい練習をやるだけに、休みもほとんどなく中学校時代とはまったく違います。でも、このようなしんどい練習を乗り越えていけば必ず自分の目標としている父を超えると思います。

だから、この北陽高校で3年間サッカーやろうと思いますし、よりレベルの高い選手になるための新しい自分自身を見つけるために、北陽で頑張っていこうと思います。

あらためてもう一度いいますが、僕が北陽高校にきたのは父の母校であり、父がサッカー選手になるための第一歩を踏み出した学校であるこの高校で父を乗り越える選手になりたいからです。

もう一回入学前のやるぞという気持ちを取り戻して、残りの2年間この北陽高校で青春のエネルギーを燃やしたいです。

そして、2年後卒業する時に、北陽でサッカーがてきて本当に良かったと思いたいからです。(北陽高校PTA新聞から)

父親の久高友雄氏(昭和56年卒)は母校初の日本一に貢献され、松下電器を経て、ガンバ大阪、セレッソ大阪で活躍された元Jリーガーで36歳の若さで永眠。



(ありし日の久高氏)

春センバツ出場なる!!??

先般、センバツ大会出場選考となる秋季大阪大会を準優勝で近畿大会出場権を得て、10月21日1回戦、和歌山県代表の県立和歌山商高を5-3で破り、準々決勝で兵庫県代表の報徳学園高校に0-5で敗れる。

近畿地区から6校出場枠があり、報徳学園高校、大阪桐蔭高校、北大津高校、市川高校がベスト4校、残り2校に、母校北陽高校、智弁和歌山高校、近江高校、東洋大姫路高校の中から選抜さ

れる見込みとなっている。

来年1月26日にセンバツ出場選考会があり、最終決定がなされます。

甲子園へは平成11年度以来、センバツは平成6年以来13年ぶりの出場なるかなどどうか、心待たれるところです。



同窓会事務局 塩田修三

編集後記

今回の発刊29回から、発刊費の削減策として、原稿入力から校正、宛名印刷、封緘まで、すべてボランティアで行いました。

初めての経験で、卒業生の皆さんには不都合な事やご迷惑をお掛けいたしますがお許しください。

又、より迅速に恩師の近況やクラス会の報告、卒業生の活躍ぶりをお知らせするために、近々同窓会独自のホームページの立ち上げも進めております。

母校のホームページ(<http://www.hokuyo-h.ed.jp/>)のリンク先からつなげる予定です。

会報の情報提供、恩師・卒業生の連絡をお受けするために、FAX(06-6320-3032)を設置しましたので、ご利用ください。

広報委員会